



こんにちは

# 村田 けい子

3月  
議会報告

2021.3.25  
№295

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

移動事務所 090-9144-8534

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

春季号

## 立科でも PCR検査を実施せよ！

2回目の緊急事態宣言が解除されて以降、コロナ陽性者が県内でも急速に増え続け、「第4波か！」の状況です。高齢者や医療施設で働く人も「感染しないか、させないか」不安の毎日です。スーパーツルヤさんでは独自に検査を定期化しました。高齢者施設に入居する時も「陰性証明」や2週間の待機を求められます。「学生が帰省する時も必要」の声も届き、議会で「必要な人が検査を受けられるよう補助制度を」と質問。小海町などでは町民が無料でPCR検査が受けられます。

町は「緊急事態宣言となれば無料で受けられる。小海町も3月末までとなっている」と制度導入に後ろ向き。「今はワクチン接種に全力をつくす時」との答弁。

### 「均等割り」なくして国保料の引き下げを。

社会保険の健康保険などと比べ国保料が高いのは、均等割り（一人あたり）・平等割（1世帯当たり）があるから。せめて子供に係る均等割り（27,700円/年・人）をなくして、子育て家庭の負担を軽くするよう求めました。

国保加入全世帯の子どもの均等割りをなくすには338万円あれば実現できます。

この度、政府は世論に押されて令和4年4月より、未就学児の均等割りの半額補助を閣議決定。町の負担は約42万円で均等割りをなくすことができます。

予備費も2億円ほど残っており、「前倒しで均等割り」を無くすよう求めました。



### ワクチン接種、4月以降高齢者から始まる。

集団接種はやめて、個別接種となり町内の医療施設で受けられます。町から「接種券」が送られます。

また、佐久地域の医療施設でも受けられるようになりました。かかりつけ医が丸子中央病院・依田窪病院・小諸厚生病院となっている人も多く、「さらに広げて」の声も届けました。

\* 未就学児31人 × 27,700円 = 41.8万円



\* 125人 × 27,700円 = 337.5万円  
( ' 20.4. 1の数字)

### 農業など一人親方・フリーランスにも休業補償を！

コロナ感染症の蔓延をうけて昨年より、国保加入の被用者（やとわれて働く人）がコロナに掛かり、休業した時の休業補償制度を新設。療養中の「給与の3分の2 × 日数で最長1年6か月まで」となりました。

しかし農業者や大工など一人で働いている人がコロナに掛かった場合には何の保証もありません。実際にこの制度を作った市町村では人口の1%程度を予想し、制度を作っていることが安心・安全につながります。

国保加入で、補償のある人、無い人が出るのは公平性から言っても不十分です。

「ぜひ、一人親方にも休業補償制度を作るべき」と求めました。



「春の妖精」現る

今週のパチリ

久しぶりのご近所を訪ねれば「カタクリが咲いたよ！見ていかない？！」のお誘いが。つつじの株の下に、下向きの優しいピンクの花が固まって咲いています。花言葉は「春の妖精」。長い冬の寒さを耐えて、地下から細い茎をのぼし頭をもたげて咲いています。フクジュソウ、水仙、クロッカス、そしてサンシュユ。春はまず黄色で現れ、次にカタクリ、チューリップなどピンク、赤…様々な色が弾けます。

丸子から参加の  
シャンソン女性2人

コロナで大勢が集まることがはばかれる状況が続いている中で、町区のふれあいネットワーク主催で楽しいコンサートが開かれました。演奏は「立科シンフォニー」シンセサイザー（電子ピアノ）・ソプラノサクソ、ドラムスを駆使して軽快な音楽が流れた後、可憐なボーカル、劇団によるチャンバラなどドタバタがあり、また、「犬神家の一族」の音楽の時には、マスクをかぶった怪しげな集団が。

音楽はBGMとなって、観客は彼らの怪しげな振る舞いにくぎ付け！おなかの皮がよじれるほど笑いました。最後はみんなで歌おうコーナー、「高原列車はゆく」「仰げば尊し」を会場一体となって歌いました。元気でるイベントでした。

出場者の皆さん、  
お疲れさまでした。



## 小海町議選に挑戦！ 渡辺晃(あき)子さん！

神奈川県湘南出身の渡辺晃子さん、小海町の自然と人々の温かさに魅入られ5年前に移住。

2歳の子と障がいのある夫

とともに「子育てと障害のある人にも優しい町」を目指して立候補を決意しています。ベテランの的壘美香子さんと女性二人で挑戦です。小海町にお知り合いのある方は、ぜひご支持を広げてください。



## 2本の意見書挙がる！

### 1、「川西赤十字病院の充実と存続を求める意見書」

日赤長野県支部長 阿部守一宛に意見書、日赤本社には要望書の形で送付。

- ①川西赤十字病院への医療体制の充実と財政支援
- ②全面改築の時期が迫っている、病棟改築の検討と財政支援を。

### 2、「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」

長野県の最賃は849円。東京都は1,013円、最も低い7県は792円など4段階に最賃が分かれ、都市部に流出する一因となっている。またこの最賃は低すぎ、

- ①1500円以上に引き上げを。
- ②同時に中小企業支援を強めることを求めています。

## 「川西赤十字病院の現状と今後の課題」

3月30日(火) 13:30~

\*立科町老人福祉センター

ダイヤ  
お話 大和眞史 氏  
(川西赤十字病院院長)

主催/長野県連合婦人会  
後援/立科町/蓼科ロータリークラブ  
/立科町商工会